

# 第3回「地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発」 検討会議事概要

## 1. 日時

平成21年3月18日（火）10:00～12:00

## 2. 場所

国土交通省合同庁舎11階特別会議室

## 3. 出席者

鎌田実（委員長）、溝端光雄、米田郁夫、藤井直人、大野寛之、今福義明、冨田征弘（代理 小沼）、秋澤忠、時枝悦郎、秋山利裕、川村泰利、水田誠、岡野俊豪、本多通弘、仲條直樹、泰松潤、月見里三津夫、中原康夫（代理 山下）、八尾健之、福元聡、森下憲樹（代理 石島）、奥田哲也（代理 木村、松野）、清谷伸吾（代理 甲斐）、後藤浩平

敬称略順不同

## 4. 議事概要

鎌田委員長の挨拶の後、以下の項目について報告及び議論がなされた。本検討会が今年度における本事業の最後の意見交換の場となる。

### （1）前回議事録の確認（資料3）・全体スケジュールの確認（資料4）・アンケートおよびヒアリング調査状況の確認（資料5）

特に意見はなかった。

### （2）バスに関する検討内容の報告（資料6～9） 主なコメントを以下に示す。

- ・次年度以降、リムジンバス以外に高速バス（2階建バスを含む）も調査対象とすることが望ましい。
- ・今後高齢者が増えていくことを考慮すると、アクセシビリティの向上により自家用車からバスへのシフトなど公共交通を利用しやすい積極的な取り組みが必要となってくる。
- ・本事業で作成した改良イメージでは、メリット・デメリットの双方があり、折り合いをつけるための検討作業が必要である。そのためには、実車を使うことも考えられる。
- ・反転式スロープの運用上の課題について検証することが望ましい。
- ・歩行車の乗車について考慮することが望ましい。

### （3）タクシーWGでの進捗状況（資料10～15） 主なコメントを以下に示す。

- ・すべての体格の方が乗車できるような車両開発は難しく、線引きが必要と考える。
- ・車両開発だけでなく、乗場含め幅広く検討する必要がある。また、乗務員教育などソフト面の対策も望まれる。
- ・行灯やセキュリティボード、エンジン仕様等についても今後検討していくことが望ましい。

**(4) 国交省による今後の予定について説明(資料16)**

後藤室長より今後の予定について説明があった。

**(5) 総括**

鎌田委員長より総括がなされた後、後藤室長より本事業への協力に対する御礼の言葉があった。

以上